

おみどう 大御堂ランドスケープデザインコンペ れきしがくしゅう 歴史学習プリント

やしろちいき おみどう 社 地域と大御堂

- 1,000 年くらい前に、社 地域は、京都の仁和寺という有名なお寺に、お米を送っていました。
- 昔、人々は、山に神様がいて、山に向かって拝んでいました。
- また、この地域は、1,000 年以上前から、8つの神様が集まっていて、昔からつづく神様と人々の関係が残る地域なのです。
- 大御堂は、たてられたのは、1185 年と言われていますが、はっきりとはわかっていません。しかし、調べたところでは、約 800 年前の木材がつかわれていることがわかっており、これは、岡山県内で一番古い木材がつかわれた建物となります。
- 大御堂は、仏と神と地域をつなぐ場所としてたてられました。大御堂のそばには、神様が集まる「神集場（かなつば）」があり、秋のおまつりには、いまでも神様が集まる行事がおこなわれています。
- 昔、どんな姿でたてられていたかはわかっていません、今の倍以上の大きさ(14m×14m)という、いいつたえもあります。
- 大御堂は、地域住民に近い存在で、かつてはあつまって食べたり、飲んだり、今でも、毎年、百万遍数珠回しといって、夏の虫による田んぼへの被害や台風などの自然災害を避けるための祈りのための行事を行っています。
- 昔も今も、大切にされている、地域のシンボルです。
- ランドスケープとは、風景のことを言います。大御堂とそのまわりの景色や暮らしをあわせて、昔の姿を自由に想像にしてください。

このおくに、
神様が集まる
「神集場(かなつば)」
があります。

